

沖縄の有用植物資源 第3回(ネコノヒゲ)

開発研究部 市場俊雄、照屋正映
豊川哲也、鎌田靖弘

『沖縄の有用植物資源』第3回目は、ネコノヒゲを紹介したいと思います。

ネコノヒゲというとあまり聞き慣れないと思いますが、実はクミスクチンのことで、花から長くのびる雄しべが猫の髭の様に見えることから、マレー語では『猫の髭』を意味する『クミス クチン』の名前がついているそうです。茎が木化して亜低木になる多年草で、インドから東南アジア、マレーシア、オーストラリア北部、太平洋諸島において広く栽培されているようです。特に、インドネシアでは有名な民間薬で、単独または他の生薬と配合して、腎炎、水腫、尿路結石などに広く用いられているそうです。

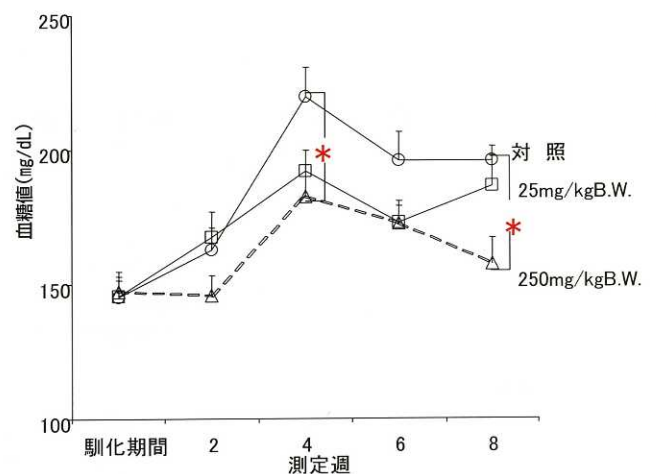
ネコノヒゲ (シソ科)
別名：クミスクチン



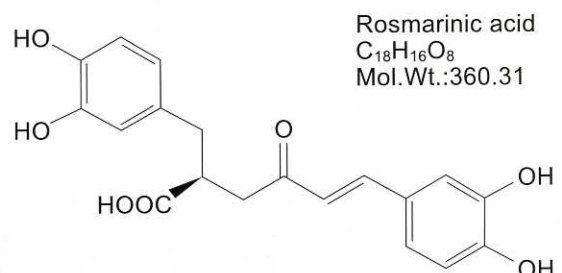
学名： *Orthosiphon aristatus* (Bl.) Miq.

工業技術センターでは、経常研究において、糖尿病予防の指標となる糖類分解酵素阻害活性試験を行い、強い阻害活性を確認しました。そこで、この結果に基づき、亜熱帯生物資源高度利用技術研究開発事業において、マウスを用いた確認試験を行いました。その結果、ネコノヒゲ粗精製画分で血糖値の上昇が有意に抑えられることを確認しました。また、その活性成分の単離・同定を行い、ポリフェノールの一種、ローズマリン酸であることを確認しました。このローズマリン酸はシソ科の植物中に広く分布していることが知られています。最近、このローズ

マリン酸の抗酸化作用や抗アレルギー作用などが科学的に証明され、シソを利用した健康食品として注目され商品化が盛んに行われています。ネコノヒゲにはこの有用成分ローズマリン酸が多く含まれることから今後の活用が期待されます。



ネコノヒゲ粗精製画分の強制投与がKK-Ayマウスの空腹時血糖値に及ぼす影響



ネコノヒゲのα-グルコシダーゼ阻害物質

参考文献

- ・世界有用植物事典 堀田満ほか編集、1996年発行 平凡社
- ・平成13年度 沖縄県工業技術センター研究報告 P77-80
- ・平成13年度 亜熱帯生物資源高度利用技術研究開発事業研究成果報告書